

第15回

亀山市脳卒中・循環器病 市民公開講座を開催しました

第15回亀山市脳卒中・循環器病市民公開講座を10月26日(日) 亀山市文化会館にて開催し、多くの市民の皆様にご参加頂き、4名の演者による脳卒中・循環器病に関する講演を行いました。また、当日は管理栄養士による健康相談コーナーを設けたくさんの方にご利用いただきました。



令和7年度

大規模地震時医療活動訓練について

9月23日(火)に大規模地震時災害に備え、医療活動訓練を行いました。今回の訓練は、本部、トリアージエリアを中心に情報伝達訓練と患者受入訓練を中心に行いました。また、鈴鹿市総合防災訓練と連携し、医療機関及び関係団体の方々と情報伝達、患者受入訓練を行いました。職員が参加し真剣に訓練に取り組みました。



すてきな絵画作品を 寄贈いただきました

佐脇八千代様より貴重な作品(作品名:幽静)を寄贈いただきました。寄贈いただきました作品は病院1階エレベーターホールにて展示しております。ご来院の際はぜひご覧下さい。



鈴鹿回生病院
公式LINE
@588uhbko
友達募集中



ほっと smile 鈴鹿医療科学大学 多職種連携教育実習を 受け入れました

8月19・20・21日、リハビリテーション学科、臨床検査学科、救急救命学科、管理栄養学科の4学科から実習生5名が実習を行いました。他の職種を体験したり、ケアプランをチームとして議論をするなど、あっという間の3日間でした。実習を通じて、自身の職種の専門性や責任、多職種で協働することの重要性を学ぶことができました。



新任医師紹介

	整形外科 白瀬 統星 (しらせ すばる)	
	眼科 今野 恵一郎 (こんの けいいちろう)	
	循環器内科 竹野 成太郎 (たけの じょうたろう)	

編集後記

皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、広報委員会までお寄せください。



鈴鹿回生病院 広報委員会
〒513-0836 三重県鈴鹿市国府町112番地の1
TEL059-375-1212 mailinfo@kaiseihp.com

回生 ニュース

社会医療法人 峰和会

K a i s e i N e w s

141号

2025.11月発行

発行/社会医療法人 峰和会
編集/鈴鹿回生病院
所在地/鈴鹿市国府町112番地の1
TEL/059-375-1212
FAX/059-375-1717
URL/http://www.kaiseihp.com
編集協力/TCKnagoya

- 1 医療の現場から
新棟新設「回復期リハビリテーション」
- 2 あなたの街のお医者さん
「はるひ野総合診療クリニック」
- 3 鈴鹿回生病院診療担当医師一覧表
交通案内(三重交通バス・シャトルバス時刻表)
- 4 鈴鹿回生病院附属クリニック診療担当医師一覧表
- 5 健康コーナー「医食動源」
・5分間ストレッチ 肩甲骨の体操
・ほぼ完全栄養食!!肉巻き寿司
- 6 病院薬剤師によるくすりと健康情報局vol.7
・患者支援センターで
あなたの入院をサポートします
- 7 Information ほっとsmile 他

令和7年10月 新棟新設 回復期リハビリテーション

治療・リハビリ・再発予防まで 当院で完結できます！

01

集中的な
治療に
特化

02

他院に
転院しなくて
OK

03

チーム医療で
迅速な対応が
できる

回復期リハビリテーションとは

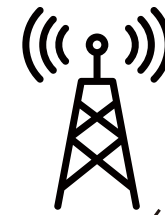
急性期の治療を終えたあとは、日常生活に戻るためのリハビリを行う「回復期」に入ります。歩く・食べる・着替えるなど、生活に必要な動作を少しずつ取り戻しながら、自宅や社会への復帰ができるようご支援いたします。当院では、急性期医療から回復期のリハビリテーションまで一貫した医療体制を整えています。医師・看護師・リハビリスタッフなどが連携し、チーム医療で患者さんが安心して治療に取り組めるようサポートいたします。

担当ドクターより

鈴鹿回生病院では地域医療に貢献すべく、新たに回復期リハビリテーション病棟を開設しました。機能回復を目指した集中的リハビリテーションを提供し、多職種が協力して生活復帰を安心して迎えられるよう全力で支援いたします。

セラピストより

当院では、リハビリ専門職が中心となり、医師・看護師と連携しながら、患者さんの「できる」を増やす支援を行います。また、退院後の生活や社会参加を見据え、多職種チームで丸となり機能回復と生活再建を力強く支えます。



病院薬剤師による

くすりと健康情報局

7
VOL

患者支援センターであなたの入院をサポートします

当院では患者支援センターの新施設完成に先駆けて、令和6年8月より、手術目的で入院される患者さんの支援を開始しております。今回はその内容についてご紹介します。

患者支援センターの取り組み

入院中のスケジュールをまとめた計画表（クリニカルパス）を用いながら、治療や検査、手術までの流れを説明します。看護師・薬剤師・管理栄養士などの多職種が患者さんと面談し、必要な情報を確認したり、入院における不安を取り除き、安心して治療に専念できるように連携して業務にあたります。

患者支援センターの薬剤師の業務

服薬状況の確認、副作用やアレルギー歴の把握、市販薬やサプリメントの使用状況の確認などを行います。その際に、手術のために一時的に薬を中止（休薬）する必要がある場合は、休薬期間を確認して患者さんに説明します。休薬する薬の一例を下記にご紹介します。

くすりの種類	休薬の理由など
抗凝固薬、抗血小板薬 （血液をサラサラにする薬）	手術に伴う出血を助長させないように休薬することがあります。手術による出血の危険度に応じ休薬期間が決まります。
糖尿病治療薬	手術時に低血糖を起こさないように休薬することがあります。
一部の血圧降下薬	手術時に過度な低血圧を起こさないように休薬することがあります。
女性ホルモン製剤	血栓症を起こすことがあるため休薬することがあります。

※手術や患者さんの状況に応じて、これらの薬剤を中止せず継続する場合もあります。
※これらの他にも免疫抑制薬など、個別に休薬の確認が必要な薬剤があります。

休薬する薬剤があり、薬の調整が必要な場合は、患者支援センター担当薬剤師 またはかかりつけ薬局にて対応することも可能です。ご相談ください。

患者さんにご協力いただきたいこと

・受診の際はお薬手帳の持参をお願いします。

服用している薬剤を確認するうえで、お薬手帳は非常に大切です。

受診の際は、お薬手帳を必ず持参してください。

・マイナ保険証の情報提供の同意にご協力ください。

患者支援センターでは情報提供に同意いただいた場合、マイナ保険証から入手できる薬剤情報を確認しています。過去のお薬の履歴や健診情報などを正確かつスムーズに共有でき、より良い医療を受けることができます。

筆者プロフィール

薬剤師 杉本恵理

薬剤管理課・主任。患者支援センター担当。糖尿病療養指導士、日病薬病院薬学認定薬剤師。

薬剤師 栗野萌

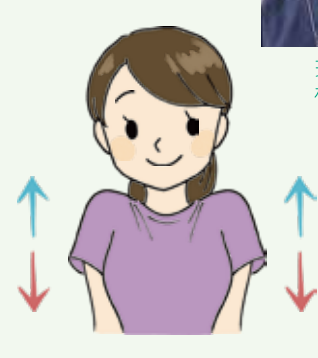
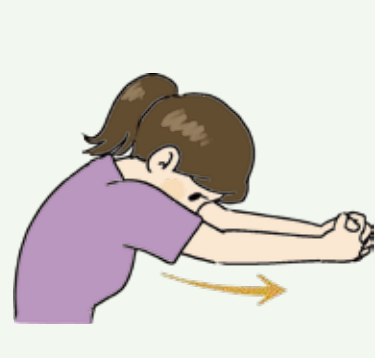
医薬品情報（DI）を担当するとともに、患者支援センターや手術室なども担当。スポーツファーマシスト、漢方薬・生薬認定薬剤師。

医食動源



5分間ストレッチ 肩甲骨の体操

今年度のテーマは「5分間ストレッチ」です。
お家でも出来る簡単なストレッチを紹介していきます。

理学療法士
橋本 果林

①肩甲骨を寄せて、離す

左右の肩甲骨をしっかり寄せて3秒保持、腕をしっかり引き出して3秒保持しましょう。

②肩甲骨を挙げて、下ろす

両肩をすくめて、5秒程度保持、その後、ゆっくり下ろしましょう。

Point



- ・このストレッチは各3～5セット実施してください。
- ・お風呂後など、体が温まっている時にストレッチをすると効果的です。
- ・痛みや辛さを感じない程度にしましょう。
- ・呼吸を止めずに無理のない範囲でゆっくりと行いましょう。

発信@
栄養管理室管理栄養士
北林 明代

巻き寿司

今回は寿司飯を使わず、肉だけに味付けを集中させたため、塩分量も低く抑えることが出来ました。一般的な酢飯を使用した太巻き寿司は、1人前食塩相当量が3～4gと多く、減塩を意識されている方には選びにくいメニューです。今回のレシピであればおまけの減塩きのこ汁を組み合わせても1食の塩分摂取目標量を2gに抑えられ、さらに食物繊維を増やせ、減塩で完全栄養食にすることができました。ハレの日の一品にいかがでしょうか。

ほぼ完全栄養食!!

肉巻き寿司

【作り方】

- ①ほうれん草は根元を切らず綺麗に洗い、長いまま茹で、絞りキッチンペーパー等で水気を切っておく
- ②人参は1cm角で、出来るだけ長めに切り軟らかくなるまで茹でおく
- ③フライパンに油を薄くひき、薄焼き卵を作り、粗熱が取れたら御飯を敷き詰める大きさより縦を少し短めに切っておく
- ④フライパンを熱し牛肉を炒め、ほとんど火が通ったら焼き肉のたれを絡めて味を染みこませ、煮きる

材料(3人分)

米……………2合
牛肉ロース……………200g
焼き肉のたれ……………大さじ4
卵……………3個
油……………小さじ1
ほうれん草……………200g
人参……………1/3本
焼き海苔……………3枚

栄養成分

エネルギー……………590Kcal
たん白質……………26.7g
脂質……………19.1g
食塩相当量……………1.4g
食物繊維総量……………5.6g

《おまけレシピ》
減塩きのこ汁(3人分)

きのこ……………小1/2パック
しょうゆ……………小さじ2
塩分無添加顆粒だし……………4g
水……………300ml

おまけレシピを加えた場合の
栄養成分

エネルギー……………605Kcal
たん白質……………27.9g
脂質……………19.1g
食塩相当量……………2.0g
食物繊維総量……………6.2g

- ⑤巻きすの上に焼き海苔のザラツとしていう方を上向きで縦方向にセツする
- ⑥炊きあがった御飯を⑤に手前から4/5程度まで均一に敷き詰め、一番奥の辺は御飯で土手を作り、具材が滑らないようにしておく
- ⑦⑥の上に③のうす焼き卵、茹でたほうれん草、人参、味付けした牛肉を置き、手前の端が奥の土手につながるように置いて巻く
- ⑧海苔の重なった部分が下になるように置き、御飯の湿気できっつくため、しばらくそのまま置いておき、その後8切れに切り分ける

連携医療機関紹介

はるひ野総合診療クリニック



▲ 鳥谷部 真実院長

「病気だけでなく、人を診る医療」
総合診療科の魅力

はるひ野総合診療クリニックは、国道23号線・北玉垣町北交差点を東に入ってすぐの場所にあり、鳥をモチーフにした看板が目印です。



院長の鳥谷部 真実先生は、2006年に弘前大学医学部を卒業後、津軽保健生活協同組合健生病院にて初期研修を修了。その後、地元・三重県に戻り、県立一志病院や鈴鹿中央総合病院などで総合診療医として研鑽を積まれました。

まだ一般的な認知度が高いとは言えない総合診療科ですが、先生は研修医時代から「病気だけでなく、人を診る医療」に魅力を感じていたのだとか。

「私が医学生の際は、総合診療はまだ黎明期で授業もありませんでした。初期研修先で出会った総合診療では、薬だけでは解決できない患者さんの背景や人生に寄り添いながら治療を進める姿勢に大きな感銘を受けました。総合診療は、特定の臓器や病気に

限定せず、患者さんの『からだ』『こころ』『くらし』を総合的に診る医療です。幅広い世代を診られることも、この診療科の大きな魅力だと感じています。」

生まれ育った地で叶えた夢

「開業する」というビジョンはなかったという先生。しかし「子育てでも大切にしたい、そして仕事も続けたい」と思い描く中で、勤務医よりも柔軟に働ける開業という道を選びました。さらに「生まれ育った鈴鹿の玉垣で地域に貢献したい」という思いから、2025年8月5日に同クリニックを開院されました。新しいクリニックながら多くの患者さんが訪れていることについて、先生はこう話します。

「地域の皆さんからの強いニーズを感じています。鈴鹿市内だけでなく、津市や亀山市からもお越しいただいています。更年期のお悩みや、繰り返す症状、原因が一度では解決しない不調など、さまざまな相談をいただいています。当院では内科・小児科・女性内科を標榜しており、風邪や感染症なども含め幅広く対応しています。『こんなこと相談していいのかな?』というお悩みにも気軽にご相談いただける“かかりつけ医”を目指しています。」

また、症状の背景には生活や考え方が大きく関わることも多いため、多職種連携を重視。院内には看護師、公認心理師、臨床心理士が在籍し、必要に応じて大学や専門医とも連携して診療にあたっています。さらに先生は、「大学とも良い関係を続けながら、総合診療科を目指す学生さんにも教育の場を提供したいと考えています。この魅力を伝え、三重県で総合診療を広める一助になればと思っています。」と、教育と地域医療の両面での役割も担っていきたいと語ります。

患者さんへのメッセージ

～総合診療科は、患者さんのニーズに応える診療科です。気になることや心配事が

DATA

TEL 059-389-6161

住所

鈴鹿市北玉垣町823-3

診療科目

●内科 ●小児科 ●女性内科

診療時間

午前／9時00分～12時00分

午後／14時30分～18時00分

	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	×	○	○	▲	×
午 後	○	○	×	○	○	×	×

外来休診日

水曜日・日曜日・祝日

▲土曜日のみ9:00～14:00診察

<https://www.haruhino-fc.jp/>

あれば、ぜひご相談ください。まずは私がプライマリーケアの範囲で対応し、必要に応じて専門医療機関をご紹介させていただきます。お一人の診療時間が長くなることもあるため、予約制をお願いしています。現在は電話予約のみですが、今後はWEB予約やクレジット決済、電子処方箋の導入も予定しており、より便利に受診いただけるよう準備を進めています。アプリ操作が不安な方にはスタッフが丁寧にサポートしますのでご安心ください。

また、人目になる方には別の発熱外来用入口をご案内していますので、事前にお電話でお知らせいただければ対応させていただきます。～



▲発熱外来用入口

今後も、地域に寄り添う「かかりつけ医」としての活躍が期待されます。